公表版

公用スマートフォン活用
テレワーク実践事例集
(ver.1.0)

2022年９月
北 海 道

目次

危機管理

【コロナ対応】コロナ関連業務の迅速な情報共有 …… 1
【コロナ対応】コロナ関連業務の広域的な関係機関との連携 …… 2
【鳥インフルエンザ対応】鳥インフルエンザ等の防疫対応等における情報共有 …… 3
【鳥インフルエンザ対応】鳥インフルエンザ発生時における道民への迅速な情報 …… 4
【災害対応】災害発生時のリエゾン業務等の効率化 …… 5
【災害対応】災害・事故発生時のリエゾン業務への活用 …… 6
【災害対応】公用スマホとPCによる災害情報のリアルタイム共有 …… 7
【防災訓練】災害発生時の機動的な災害対策本部の設置等 …… 8

情報発信

【水産振興】現地の旬な水産情報をSNSで効果的に情報発信 …… 9
【地方創生】ShiriBeshi留学の効果的な情報発信とPR活動の効率化 …… 10
【地方創生】Smart道庁×ナナイロひだかサポーター制度で魅力発信をカイゼン …… 11
【ワーケーション推進】上川地域の北海道型ワーケーションの実体験と情報発信 …… 14
【魅力発信】そらちの魅力はモバイルワークでワン・デイ発信 …… 15
【魅力発信】「ガーデンフェスタ北海道2022」など臨場感あふれるリアルタイムな情報発信 …… 16
【魅力発信】縄文関係イベントなど渡島の魅力を積極発信 …… 17
【魅力発信】ドローンなどで撮影した檜山地域の魅力をリアルタイムで配信 …… 18
【魅力発信】留萌管内の「風景」や「食」などの画像データ等の共有化 …… 19
【魅力発信】全職員で集めた十勝の魅力をインスタグラムで発信 …… 20
【魅力発信】インフルエンサーと連携したくしろ地域のリアルタイムな魅力発信 …… 21

目次

事業者対応

【地域公共交通】地域公共交通の利用促進への活用 …… 22
【私学振興】私立学校におけるオンラインヒアリングの実施 …… 23
【観光振興】檜山地域における観光事業者等への迅速な対応 …… 24
【食産業振興】道南ワインアカデミーのオンライン開催 …… 25
【食産業振興】商談会等でのバイヤーに対するタイムリーな情報発信 …… 26
【産業振興】スタートアップ支援業務への活用 …… 27
【農業振興】農作物生育状況調査における画像データの共有化 …… 28
【農業振興】農業改良普及業務に係る外勤先での公用スマホ活用術 …… 29
【地方創生・若者定着】大学との連携による大学生の地域活動事業への活用（何でも答える説明会!!） …… 30
【地方創生・移住推進】胆振地域への移住やワーケーションに向けた視察コンシェルジュ …… 31
【社会福祉】生活保護世帯の家庭訪問調査における公用スマホ活用 …… 32
【事業所・施設対応】事業所や施設への対応業務の効率化 …… 33
【広報活動】Smart道庁に係る取材対応をスマート化 …… 34

現地調査

【法人手続業務】法人手続業務における現地調査の効率化 …… 35
【法人手続業務】法人手続業務における証明事務の効率化 …… 36
【税務業務】税務業務における現地調査の効率化 …… 37
【公宅管理】公宅点検業務の効率化 …… 38

目次

その他

【フリーアドレス】留萌振興局独自の所属を超えたフリーアドレスによる業務の活性化 …… 39
【業務改革】かみかわ版Smart道庁の取組（かみかわスタイル） …… 40
【風土改革】日高振興局独自の公用スマホ・DoCHAT利用促進法 …… 41
【情報共有】グループチャットを活用した日高振興局幹部職員間の情報共有 …… 42
【出張・外勤】総務業務へのモバイルワークの活用 …… 43
【財務会計】DoMEETを利用した財務システム操作等の問い合わせ対応 …… 44
【セミナー参加】DoMEETを利用した遠隔からのセミナー参加等 …… 45
【北方領土】北方領土関係業務でのモバイルワークの活用 …… 46

コロナ関連業務の迅速な情報共有

概　　要	新型コロナウイルス感染症業務に関し、土日含めた毎日の全道各地の感染状況をスマホ、PC、DoCHATを活用して本庁職員と地域へ派遣された職員でリアルタイムに共有
効　　果	報告時間の短縮による業務効率化と迅速な対応の実現
現場の声	・電話だと相手が忙しくてつながらなかったり、他の人にすぐ伝わらないのがDoCHATだと一度に共有ができて楽になった ・DoCHATのステータスで相手に電話をかけて良いのかすぐわかるので、出張者と連絡が取りやすくなった
改 善 点	・公用スマホでDoCHATを使えるとより連絡が円滑にできるようになる。 ・公用スマホからの写真取り込み機能を今後は活用したい。

～これまで～

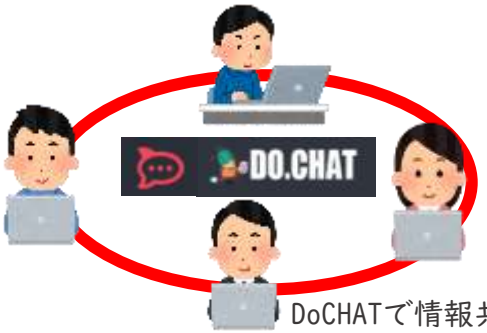
- 地域の感染状況の詳細を電話等で把握、**個別報告**やミーティングで共有するため、**全体の情報共有に時間**が・・・
- **お互いに状況が見えない**ため、本庁職員と地域に派遣された職員との**連絡がタイムリーにできない**場合も・・・
- 土日を含めて交代勤務でローテーションを組んでいるため、**不在時の状況を速やかに把握することが困難**
- 情報共有が遅れると地域への支援も遅れ気味に・・・

各地の状況を聞き取り

聞き取った情報を報告

～これから～

- 把握した**情報を速やかにDoCHATで共有**、関連する情報はスレッドに返信することでまとめて閲覧可能！
- ファイル共有も速やかに行えるため、**必要な情報をまとめて共有可能！**
- 非番の日の情報もスレッドで確認でき、**引継が手間いらず！**
- 情報共有が速やかにできるため、**支援調整も迅速化！**



DoCHATで情報共有

速やかな支援対応

保健福祉部感染症対策局感染症対策課（地域支援班）

コロナ関連業務の広域的な関係機関との連携

概　　要	公用スマホ、DoCHAT、モバイルワーク等のITを活用し、新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所の業務の効率化を図った。 ①DoCHATのプライベートグループによる振興局、２つの保健所、本庁（指揮室）４者間の迅速な情報共有 ②モバイルワークを活用した業務の集約と振興局から保健所への応援態勢づくり （振興局から２つの保健所への応援職員の派遣 → 根室保健所１カ所へ　※**保健所業務支援センター（通称：Cats）**の設置） ③モバイルワークを活用し、現地での資料作成・送信による疫学調査情報等の迅速な把握
効　　果	①離れた部署がリアルタイムで情報を共有でき、対応が臨機応変かつ迅速になる。 ②それまで振興局から２つの保健所へ応援職員を派遣していたところを、振興局所在地の１カ所（根室保健所）にすることで、移動や宿泊などの職員派遣に伴う負担を軽減するとともに、業務を集約することにより応援職員数の効率化が図れる。 ③クラスター発生時に、現地施設で収集した情報を現地から所定様式で送信することで、同時並行で保健所内で業務を進めることができ、対応が迅速になる。

➢ 公用スマホ等を活用して、逼迫する保健所のコロナ対応業務を効率化

～これまで～

・根室振興局では、コロナ感染症の拡大にともなう保健所業務の逼迫への対応として、全庁的な支援体制を敷いており、根室、中標津両保健所に振興局職員を派遣し、業務支援を行ってきた。

～これから～

・離れた部署間での自由な情報共有の場の設置 → 臨機応変、迅速な対応
・根室保健所内に設置した「保健所業務支援センター」における、根室保健所と中標津保健所の両方の業務支援の実施
・現場と執務室とが連動した業務の実施→業務スピードの向上

＜業務支援センター（Cats）＞

＜根室保健所＞

根室振興局保健環境部保健行政室（根室保健所）

鳥インフルエンザ等の防疫対応等における情報共有

概　　要	公用スマホの通話、メール、写真撮影、テザリング機能を家畜伝染病の防疫対応等に活用
効　　果	・令和４年度の高病原性鳥インフルエンザ防疫対応時には、本庁指揮室と現地指揮所との情報共有（通話、庁内メール、Web会議）に役立った。 ・これまでデジタルカメラで撮影し、職場に戻ってから媒体経由で保存・確認していた写真を公用スマホから転送できるようになり、速やかな情報共有ができるようになった。 ・デザリングした職場PCを持ち出せるようになり、防疫従事者や畜産農場等に対し、言葉や印刷物だけでなく、パワーポイントや動画を用いた説明により効果的な指導ができるようになった。
気　づ　き	今後も有事における現地指揮所、有事に備えた防疫演習、畜産農場に対する生産性向上対策指導等の場での活用等が見込まれるが、電源を確保できない状況を想定したモバイルバッテリーの整備、パソコンを畜産農場へ持ち込む際は、汚染防止及び消毒できるようキーボードカバーが必要。

➢ 高病原性鳥インフルエンザ等、家畜伝染病の防疫対応等に活用

～これまで～

出先においてはリース又は個人の携帯電話での連絡、ホワイトボードや印刷物などアナログで情報共有

～これから～

① 家畜伝染病の防疫対応等で現場に出た職員が、公用スマホによる電話、庁内メールの確認・送付（撮影写真を含む）、テザリングした職場PCにより、家畜保健衛生所や本庁と速やかに情報共有

② 防疫従事者や畜産農場等に対し、職場PCを用いて資料を画面あるいはスライドを映写して説明したり、聴取した内容等のデータをその場で入力

＜現地指揮所＞

本庁との情報共有

今後は映像も活用

＜畜産農場＞

従業員への説明

農場の防疫計画検討

家畜保健衛生所

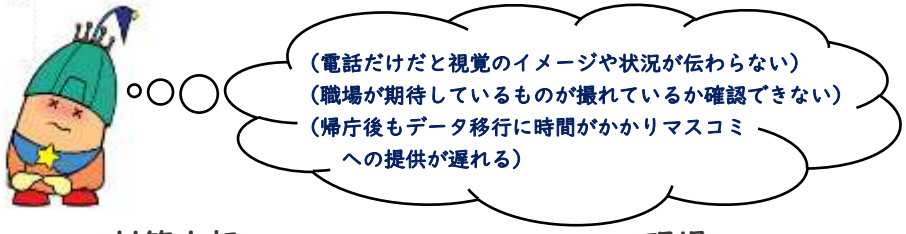
鳥インフルエンザ発生時における道民への迅速な情報提供

概　　要	鳥インフルエンザによる災害の発生時、公用スマートフォン及びパソコンを活用した対策本部との速やかな情報共有、テザリング機能を利用した迅速なマスコミへの写真・動画メディアの送付に対応
効　　果	道民の安全のため速やかな情報提供が求められる中、データの受け渡しに要する時間を大幅に短縮し、迅速な情報提供を行うことが可能となる。
道民の声	感染対策として制限が掛けられた区域の情報など、マスコミが撮影できない部分の情報を速やかに提供いただけた。
気づき・失敗	防護服を着ていると、スマートフォンを取り出せず外部との連絡が取りづらいため、感圧システムが導入された機種の利用や防疫用スマホカバーの購入など対策が必要と感じた。

➢道民の皆さまへ、災害時でも早く正確な情報を

～これまで～

①災害発生場所へ出向き、災害状況を「私用電話」にて共有
②災害状況をデジカメで撮影し、職場へ帰庁
③自席PCへデータを保存し、担当職員と確認の上、マスコミへ情報提供



～これから～

①DoMEETを活用し、現場の状況をリアルタイムで共有
②公用スマホまたはデジカメで撮影し、データを共有ドライブへ格納
③職場担当職員が確認後、マスコミへ情報提供
その他にも・・・
・移動中も随時更新される資料を確認することが可能
・防護服の着脱説明等を共有フォルダに保存した動画やDoMEETで確認可能

＜対策本部＞

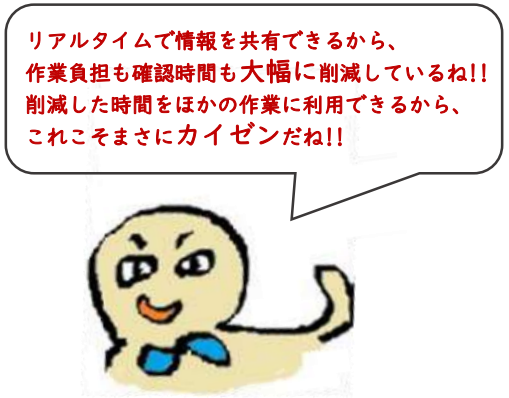
現場と情報を随時共有

＜現場＞

動画等で着脱の仕方を確認

＜現場＞

現地の写真を撮影し共有



釧路総合振興局地域創生部地域政策課

災害発生時のリエゾン業務等の効率化

概　　要	気象状況等が悪化していく災害発生前や災害発生後において、気象に関する資料、道路や河川の異常状況等の画像、災害現場の画像、災害発生状況記載マップなど、関係機関や派遣リエゾンからの情報を、メールにより関係職員に共有する。
効　　果	これまでは、電話による口頭での状況説明や情報共有が主であったが、特に夜間や休日に資料等をメール送信することにより、関係職員への送付及び資料閲覧による状況把握が効率よく行える。
問　題　点	デスクネッツのメールを使用するため、公用スマホにメール送信しても、公用スマホにはデスクネッツメールの受信通知機能がないことから、メール以外の手段で対象職員に知らせる必要がある。

➢ 関係資料等を職員スマホにメール送付することで、効率よく共有・状況把握

～これまで～

特に夜間や休日では、電話による口頭の説明や情報共有が主であり、また、状況により説明が困難なケースもあった。

～これから～

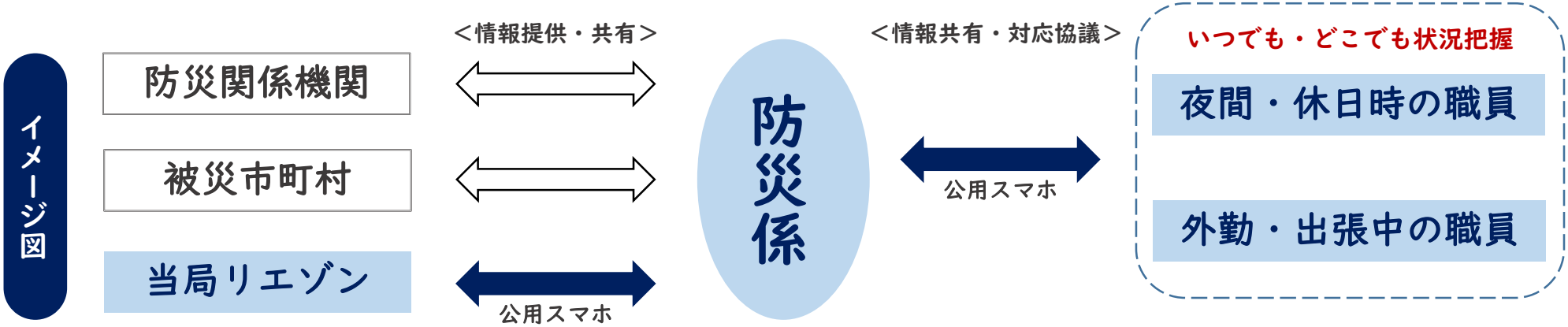
① 防災関係機関や被災市町村に派遣されているリエゾンから防災係に資料や画像が提供される。

② 防災係からデスクネッツメールにより、勤務時間外や外勤中などで職場外にいる職員に対して、防災関係機関から提供された資料等を送付する。

③ 職場外でも公用スマホでメール受信することで共有される。

④ 情報共有後、対応を協議する。

※災害発生時等、一時的にXドライブにも各種資料を保存することで、PCを携帯していれば職場外でも閲覧して概況を把握することができ、迅速な対応協議にも資する。



災害・事故発生時のリエゾン業務への活用

概　　要	災害・事故対応時のリエゾン派遣先において、現地での関係者会議や捜索状況等の概要をPCやスマートフォンを活用し、職場とリアルタイムで情報を共有
効　　果	・現地と職場間でリアルタイムで情報を共有することで、時間と場所に制約されずに、迅速かつ的確な危機対応はもとより、リエゾン間の引き継ぎもスムーズになり、より効果的かつ機動的な対応が可能となった。 ・ホワイトボードに記載の捜索状況など文書化しづらい情報もスマートフォンのカメラを活用した画像の共有により正確な情報共有が可能となった。
道民の声	職場と現場の情報共有が徹底されており、意思決定までのスピードが早いと感じた。
気　づ　き	関係者への聞き取りや現地会議への出席等でPCを離れる機会が多いため、離席時のログオフの徹底が必要

➢ 現地リエゾンと職場でリアルタイムに情報共有

～これまで～

・災害時等のリエゾン派遣において、職場への現地情報の共有は、電話で口頭により行われていた。
・現地資料の共有や被害状況の経過報告書及び引継書の作成は、職場に戻ってから行われていた。

～これから～

① 現地において、リエゾンが各関係者の危機対応状況を聞き取り
② リエゾンは、聞き取り情報をスマートフォンにて電話で報告するとともに、ホワイトボードや地図情報などをスマートフォンのカメラにより撮影し職場に共有
③ PCを活用し、現地の聞き取り情報や会議の録音データをＮドライブに保存し職場に共有
④ 待機時間などにPCを活用し、現地会議の概要や次のリエゾンへの引継書を作成し、Ｎドライブに保存
⑤ 職場において、リエゾン要員から共有された情報に基づき、必要な対応を指示
⑥ 次のリエゾン要員は、事前にＮドライブに保存されている現地情報などを把握の上、現地に向かう。

＜現場＞

＜職場＞

公用スマホとPCによる災害情報のリアルタイム共有

概　　要	災害時において、市町村や関係機関等から収集した災害情報について、出張時や夜間休日の自宅待機の際にも公用スマホとPCを活用して、リアルタイムに情報共有し、初動対応に備えた。
効　　果	連絡本部のホワイトボードに手書きで整理された対応状況や北海道総合防災情報システムから提供される各種情報など、直ちにデータ化をすることが難しい情報について、公用スマホのカメラで撮影し、データファイルを共有することで、情報伝達の正確性と迅速性を高めた。
課　　題	災害対策本部指揮室の要員をはじめとした幅広い職員と公用スマホを活用した情報伝達体制を整え、防災訓練での実践などを通じて活用スキルを高めていくことが必要。

～これまで～

・住家被害や避難・ライフラインの情報などは、刻一刻と変わるため、ホワイトボードで整理していた。
・整理した情報の共有に当たっては、電話による口頭での状況説明やテキスト入力した電子文書の送信が主であり、時間や手間がかかったり、多数の関係者と同時に正確な情報共有を行うことが困難であった。

～これから～

・ホワイトボードで整理した災害情報や防災情報システムの画面等を公用スマホのカメラで撮影し、自宅待機している職員とリアルタイムで正確かつ迅速に情報を共有。

本部で災害情報を公用スマホで撮影

＜ホワイトボード＞

＜防災情報システム＞

◆迅速に情報伝達を行うため、情報をテキスト化せず写真データ化
◆OPSWATを使い共有フォルダに写真データを保存
◆公用スマホとPCを活用して写真データを閲覧し、リアルタイムで情報共有

＜PC・公用スマホ＞

自宅待機中の職員や出張中の職員との情報伝達の正確性と迅速性を高めた。

上川総合振興局地域創生部地域政策課

災害発生時の機動的な災害対策本部の設置等

概　　要	各種災害に際し、現地災害対策本部、振興局の災害対策地方本部指揮室、現場にリエゾンとして派遣される職員等が公用スマホや職場PCを活用することにより、通信インフラが整備されていない場所でも情報収集、情報共有、合意形成、総合調整等が可能となる。
効　　果	道（振興局）の危機対応能力を強化し、道民の生命、身体、財産を守ることに繋がる。
関係機関の声	災害時に情報の一元化と総合調整を担う道（振興局）のSmart化により、災害対応力が向上した。
気　づ　き	・指揮室の喧騒の中では、スマホの音声が聞き取り困難な場合があり、更に電話対応しながらクロノロジーをキーボード入力できるようにヘッドセットが必要 ・スマホ、PCともにバッテリーの減りが早いため、電源が無い場合は大容量モバイルバッテリーが必要

➢ どこでも災害対策本部

～これまで～

・大規模災害発生時に設置される現地災害対策本部や指揮室には、通信インフラの設置（整備）が絶対条件であったため、最適な場所に対策本部を設置できなかったり、発災直後の初動が遅れたり、非効率な情報共有要領を実施せざるを得ない状況であった。

・災害現場にリエゾンとして派遣される職員に携行させるポケットWi-Fi付属の「リエゾンPC」は、各振興局に１台ずつしかなく、広地域大規模災害には対応できない状況であった。

～これから～

① 通信インフラに左右されることなく、災害応急対策に最適な場所に現地災害対策本部等を設置
② 災害対策本部内の電話線、LANケーブル等の接続が不要になり、設置の所要時間が短縮
③ テザリング接続により、何カ所でもリエゾンにPCを携行させられ、情報共有が可能
④ リエゾンや現地の職員は写真データをdesknet’sメールに添付し、対策本部あてメール送信し、情報を共有

※写真は6月28日に実施した災害対策渡島地方本部訓練

最適な場所に対策本部を設置

電話線、LANケーブル必要なし

テザリングとDOWKAIでWeb会議

テザリングでリエゾンと情報共有

Smart道対応マニュアル

現地の旬な水産情報をSNSで効果的に情報発信

概　　要	公用スマホを使って、外勤先等で見つけた旬な水産情報の画像、コメント等を現地から送信し、事前に内容を確認。北海道の水産業の魅力を紹介するSNSアカウント「どさんぎょ（北海道の水産情報発信）」への投稿の可否やコメントの修正等について現地と直接やり取り。
効　　果	・SNSへの投稿の可否やコメントの修正等を現場から直接事前確認できることによって、振興局及び水産林務部総務課において、速やかな決裁が可能となり、SNS投稿までの時間が大幅に短縮 ・全道の旬な水産情報をより速やかに「どさんぎょ」で発信

➢ SNS投稿の可否を事前に確認し、旬な水産情報を速やかに発信

～これまで～

① 振興局水産課等において、現地の旬な水産情報をデジカメ等で撮影後、職場に戻ってから撮影した写真をパソコンに取り込み記事を作成、課の決裁を終えてから水産林務部総務課に投稿を依頼

② 水産林務部総務課で内容を確認し、投稿の可否を判断、修正等があれば、再度、振興局とやり取りして修正を行い、課内決裁後、SNSに投稿

～これから～

① 公用スマホを外勤先等に持参し、現地の旬な水産情報を撮影した画像にコメントをつけて送信

② 振興局、本庁は、事前に内容を確認し、本庁は投稿の可否や修正事項を本人と振興局に連絡

③ 速やかに振興局水産課内で決裁後、本庁に投稿を依頼

④ 速やかに本庁課内決裁後、SNSに投稿

「どさんぎょ（北海道の水産情報発信）」で現地の旬な水産情報を速やかに発信

＜現地において旬な水産情報を撮影、コメント等作成＞

現地から画像、コメント等を送信

→本庁で内容を確認し、投稿の可否等を判断

振興局から本庁に投稿を正式に依頼

→本庁で速やかにSNSに投稿

〈SNS投稿記事〉

水産林務部総務課

ShiriBeshi留学の効果的な情報発信とPR活動の効率化

概　　要	・Shiribeshi留学プログラム参加者のインターンシップ中の様子をスマホで撮影し、公式SNSに掲載する。 ・プログラム参加者の募集のために行う道内外への出張でモバイルワークを活用する。
効　　果	・公用スマホで写真撮影できるため、同時に複数のインターン現場を撮影。参加希望者等に視覚的に内容を伝えることができるのでわかりやすい。撮影時間が短縮でき、多くの現場を同時に撮影できる。 ・説明会を効率的に開催でき、移動にかかる時間も短縮できるため、職員の負担も軽減。
道民の声	動画や写真により、就業先の会社の雰囲気などが伝わりやすい。

➢ スマホの活用でインターン現場の撮影が、より効率的・効果的に

～これまで～

インターンシップの様子をデジタルカメラで撮影し、公式SNSに投稿。同時に複数箇所での撮影が困難（Ｒ４夏季ｲﾝﾀｰﾝ先 ～ 10社）

～これから～

・各自のスマホで撮影ができるため、同時に複数箇所で動画を含めたインターンの雰囲気を撮影、インターン先の企業や事業のリアルな様子が伝わりやすくなり、より効果的な情報発信が可能に。

・同時に複数箇所での撮影ができるため、撮影時間が短縮。移動にかかる時間や日程調整などの負担も軽減

➢ モバイルワークで道内外の出張が効率的に

～これまで～

プログラム参加者の募集のため、道内外の大学等（Ｒ４夏季事業では、計22校）で説明会を実施しているが、出張先での資料修正ができず、他の業務の滞りも懸念されることから、長期間職場を不在にすることが困難

～これから～

出張先での資料の修正のほか、Zoomを利用した説明会も可能に。

また、出張先でPCを活用した事務処理や所属とDoMEETを活用して打合せができるため、長期出張が可能となり、さらに移動時間の短縮で、訪問先の新規開拓・追加等も可能に。また、「仕事が溜まっているかも」との心理的な不安感も軽減

従来の行程

日付	行程等	課題
日曜日	移動日（倶知安→東京）	・資料修正ができない ・他の通常業務がたまり、心理的に負担も ・移動に約３日費やしていた ・週休日にも用務があり、休息が十分取れなかった
月曜日	大学訪問	
火曜日	午前　大学訪問 午後　移動（東京→倶知安）	
水曜日	庁舎勤務	
木曜日	移動日（倶知安→大阪）	
金曜日	大学訪問	
土曜日	午前　事業者訪問 午後　移動（大阪→倶知安）	

改善イメージ

日付	行程等	改善ポイント
日曜日	移動日（倶知安→東京）	・一部リモートで大学説明や事業者説明（タイトなスケジュールの中で日程調整が柔軟化） ・資料も出張中に修正 ・出張の合間に職場と打合せ、事務処理 ・移動が約２日費に短縮 ・大学訪問に費やす時間が増え、新規開拓も ・休日の移動が減ったことにより、休息も取れる
月曜日	大学訪問	
火曜日	午前　大学訪問 午後　移動（東京→大阪）	
水曜日	大学訪問	
木曜日	大学訪問（新規開拓）	
金曜日	午前　大学訪問 午後　移動（大阪→倶知安へ）	
土曜日	週休日	

後志総合振興局地域創生部地域政策課